

令和5年度 浦和麗明高等学校 学校自己評価シート

学 校 目 標	建学の精神である「みんなから愛され、信頼される人」「社会に役立つ人」「勤労を尊び前進する人」を育てることを探求する。
本 年 度 の 目 標	(1) 教育理念及び教育方針の徹底 (2) 基本的マナーの習得と生徒指導の徹底 (3) 進学実績と進学率の向上 (4) 安心・安全な教育環境の整備 (5) 変化する社会に対応する力を養う

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

評価項目	現 状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策		
						学校関係者評価	評 価	
						実施日 令和5年6月13日	学校関係者からの意見・要請	
1 教員授業力強化の取組み 教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力が年々上がり、学習に対して前向きな生徒が増加している。</li> <li>昨年度よりも入学基準の数値を上げたため、学習能力および学習に対する意欲の高い生徒が増えている。</li> <li>生徒数は削減したものの、選択授業においては座学の授業にお適していない進路指導室やクラブ室、会議室などを使用せざるを得ない状況であり、その差配に苦心している。</li> <li>非常時における避難経路の確認を行っている。</li> <li>災害時における非常食の確認を行っている。</li> <li>電力料金の上昇により、節電の努力が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の関心をひくとともに、能力を伸ばせるような授業の構成を図る。</li> <li>予習復習の意義を徹底させる。</li> <li>長期休暇中の課題提供およびその確認を行う。</li> <li>選択授業においては、極力同じ教室での実施を図るが、それが困難な場合は、必要によって実施教室を変えることも検討する。</li> <li>日々の設備、および備品安全管理の定期点検を実施する。</li> <li>避難訓練の全学年同時実施を行う。</li> <li>災害時の非常食確保に向けての定期点検を実施する。</li> <li>救急救命講習を実施する。</li> <li>節電への意識高揚と放課後の無人教室照明の消灯等、具体的な節電方法を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科への興味、意欲の向上。</li> <li>学習習慣の定着。</li> <li>授業力の向上およびそれに伴う授業満足度の向上。</li> <li>試験前の学習習慣の定着。</li> <li>防災対策(備蓄品を含む)の確保。</li> <li>清掃活動の徹底。</li> <li>電気使用量の増減の確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタディサプリ等の実施、定着により学力は向上している。</li> <li>朝夕ともに、自習室で学習に取り組む生徒が増加している。</li> <li>定期試験前になると、放課後残って勉強する生徒は多くなり、自習室だけでなく、自教室やランチルームで使用している。</li> <li>上記の点に関しては、何とか収容されているものの、自習場所の不足は否めない。</li> <li>火災報知器、非常放送、消防設備、汚排水槽の定期点検の実施を、事務と連携して行う。</li> <li>校舎施設、備品の安全点検を行う。</li> <li>照明、照度、飲料水の定期点検の実施。</li> <li>災害対策備蓄品の確保。</li> <li>避難訓練、および防災意識の徹底 救急救命講習の実施。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の入学生が347名となり今年度よりは減少し、対象教室も一室増えたが、まだ余裕があるとは言えない。次年度の3年生が500名近く在籍しているため、この学年が卒業するまでは何とかやりこなすしかない。</li> <li>生徒の学力が上がっているため、それに対応する教員の授業力も上げなければならぬ。授業見学や授業評価アンケートを参考に、改善していくことへの各自の意識とともに、教科を、事務と連携して行う。</li> <li>校舎設備に関しては、号館による使用年数の差があるため、特に1、2号館については注視してゆく必要がある。また、新規採用の教員も多いため、校舎や設備の使用に関して共通の理解を持ち、それを生徒にも伝えることが必要である。</li> <li>教務的な内容において、年々、新たな取り組みや変更等があるため、教務内規を見直し、整理しなくてはならない。</li> </ul>	Aにならなかつた理由は何？ 教室がいっぱいであるために、学習環境という観点から、もう少し余裕を持たせたく、その面で不便を感じさせてしまっている。	B
2 進路指導 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>共学5期生の卒業になる。入学時の北辰テスト偏差値を比較すると、偏差値67以上の生徒が共学4期生・・・7名 共学5期生・・・50名以上のため、数値上は合格実績の向上も見込める</li> <li>しかし、4月記述模試の英語の結果を4期生と比較すると、偏差値60以上の生徒数が4期生・・・47名 5期生・・・48名と、当初の成績は圧倒的に5期生の方が良いにも関わらず、現状は同じということで、これからのテコ入れが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【高校3年生向け】</li> <li>生徒向けの進路ガイダンスを実施し、一般選抜型受験と英語外部、検定試験のメリットを共有し、生徒のモチベーションを上げる。</li> <li>卒業生チューターとの面談</li> <li>指定校・公募・総合選抜型受験の生徒・面接対策・小論文指導を中心に、一般選抜型受験の卒業生から具体的な学習法とメンタルケアを行う。</li> <li>受験校研究</li> <li>生徒の志望校を踏まえつつ、合格しやすい併願校のプランニングを行う。先生方と情報共有することにより、生徒向けの進路ガイダンス、三者面談により落とし込みを行っていく。</li> <li>【高校1・2年生向け】</li> <li>適性診断で文理選択・学部選択の意欲を向上させる。</li> <li>社会見学・高大連携講座で好奇心と将来の進路選択への意欲を喚起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学合格目標 国公立・早慶上理 60名 GMARCHレベル 120名 成成獨国レベル 150名 日東駒専レベル 120名</li> <li>1・2年生は模試成績の前年対比で、各年度の大学合格目標に達成できるレベルの数値設定を超えられるかどうかを確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学合格目標 国公立・早慶上理 76名 GMARCHレベル 211名 成成獨国レベル 280名 日東駒専レベル 285名</li> <li>全体的に数値として合格目標を大きく上回ることができた。</li> <li>本年度の卒業生の良い点も改善点も伝統として蓄積するため、「受験体験記」を全生徒に書いてもらうことにより、次年度の先生・生徒とも情報共有し、併願校指導や学習法を組織的に行うことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学合格目標を数値上で全項目上回ることができた。次の目標として</li> <li>【教員】</li> <li>今年度の学年・担任・教科担当者だからできたということではなく、どの年度でもどの担任でもできるように、浦和麗明高校の組織としてのノウハウを蓄積していきたい。</li> <li>【生徒】</li> <li>実績として数値目標のさらなる向上はもちろんのこと、第一志望合格者という点にこだわり、第一志望の合格者の人数を増やしていく。</li> </ul>	今年度の実績は大変素晴らしいと思う。次年度もこのような結果が出るような指導をしてほしい。	A
3 生徒指導 生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体として落ち着いた雰囲気生活することができている。</li> <li>年間の懲戒指導件数も数件となっており、生徒自身が善悪の判断がしっかりとできている。ただし、学年における軽微な指導(携帯電話の規定違反など)は減少傾向とはならず、今後も注視していく必要がある。</li> <li>学校での活動に不安を感じている生徒が一定数おり、担任・学年主任・生徒指導部・スクールカウンセラーと連携し迅速に対応する体制を整えている。</li> <li>校則や生徒の購入品に関する規定の見直しを数か年かけて行っている。また、世間における物価高などを考慮して学校制定品の見直しなどに取り組んでいる。</li> <li>SNS等については、禁止するのではなく使用方法を説明し生徒たちの理解を得ていく必要がある。</li> <li>文化祭などの行事も新型コロナウイルスの影響を受けることなく実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員による積極的な玄関・廊下等での挨拶の徹底、外部からの来校者に対しての生徒から自主的な挨拶を徹底する。</li> <li>手帳型生徒手帳を採用し、生徒自ら日々の行動・状態を把握できるように変更した。</li> <li>学校生活に関する不安やいじめに関するアンケートを紙媒体で行うのではなく、Googleformを活用することで匿名性の高い状況へと変更した。</li> <li>学校制定コートの特典的な価格上昇が決定的となり、いくつかの規定を設けただけで自由化した。</li> <li>クラブ活動の積極的加入と共に、継続的に活動させることを目標とした運営を教職員に指導した。</li> <li>担任を始め、学年・授業関係者が日ごろの生徒の状況を観察し、気がついた時点で教員間の情報の共有を図る。</li> <li>通学路における要所における交通安全指導を行い生徒の安全を守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻、欠席者の減少</li> <li>問題行動の減少</li> <li>活気のある学校生活</li> <li>頭髪服装等違反者の減少</li> <li>退学者の減少</li> <li>自転車乗っ込み違反者の根絶</li> <li>交通ルールの遵守</li> <li>課外活動の活性化</li> <li>通学路の環境整備</li> <li>SNSの使用方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響を受けることも減少してきており、文化祭などの行事をすべて履行することができた。</li> <li>年間の指導件数は他校に比べ、非常に少ない状況で推移した。この点については、担任の先生や学年主任が日ごろから生徒に寄り添った指導を行ったことで、善悪の判断を思慮深くできたと評価できると考える。</li> <li>警察、鉄道警察隊など各関係機関と協力して、生徒の活躍する場を増やすことができた。浦和駅では生徒会の3名が場内アナウンスを担当するなど外部での活躍を広げられたことは評価できると考える。</li> <li>今年度からいじめアンケートにおいて匿名性の高い状況を作ったことで、生徒が素直に回答できる環境を整えることができた。</li> <li>校則に関しては、他校(県内外私立)や企業や大学などに意見を求めるなどして改善を図っていった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任、学年主任、学年団のみならず、全職員による生徒指導の徹底及び情報共有の連携を図る。</li> <li>8時25分(始業5分前)登校の徹底。</li> <li>登下校時、校舎内ならびに来校者に対する挨拶の徹底。</li> <li>遅刻、欠席者の状況把握と共に早期指導に重点を置き、欠席過多や転学者の抑止、防止に努める。</li> <li>各学期に二者面談、6月、11月にいじめ防止アンケートの実施により、いじめの未然防止に積極的に取り組む。</li> <li>学校行事、課外活動への参加を促し、活気ある学校を目指す。</li> <li>スクールカウンセラーの活用及び連携により精神的なケアにも積極的に関与していく。</li> <li>生徒主導による行事等を計画していきたい。</li> </ul>	クラス内の生徒は穏やかで良い。生徒同士、良い関係が築けていると思う。	A
4 教科指導 教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的好奇心旺盛で、日々の授業や定期試験に向けた学習に意欲的に取り組む生徒が増加傾向にある。</li> <li>生徒の学力層が高まっているため、難関国公立大学を目指す生徒が増加傾向にある。</li> <li>一方で、最難関大学合格者を増やすに当たっては、家庭学習習慣が未定着、不安定な生徒も数多く存在している。</li> <li>模擬試験に対する意識も高まり、河合塾模試等を含めて意欲的に受験する生徒が増加傾向にある。しかし、模擬試験の結果のみ注目し、復習が徹底できていない生徒は散見される。</li> <li>入学時点で英検準2級取得済み生徒も多く、英検取得への意識も高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝のHRでの小テストを継続実施すると同時に、各授業においても小テストを学習内容の復習と家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>土日祝日に自習室の開放を実施する。</li> <li>定期試験、模擬試験の復習を各教科・科目の課題とすることによって生徒の模擬試験の復習効果を高める。</li> <li>模擬試験の内容を定期試験に出題し、復習定着度の可視化を図ることで、復習に取り組む意欲の向上を促す。</li> <li>学習指導の均一化、個別最適化や難関大学対策として、スタディサプリや代ゼミフレックスサテラインなどの映像コンテンツの活用を促し、授業外での学習効果を高める。</li> <li>河合塾で採用されている学習アプリ「Monoxer(モノグサ)」を活用し、単語力・リスニング力の向上を図る。</li> <li>DMM(英会話)の活用により、アウトプット時間を確保すると同時に、インプットした英語の知識(単語・文法など)の定着を促し、「読む」「書く」「聞く」「話す」すべての処理速度の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種模擬試験の途中経過(前年比・前回比)の定定観測</li> <li>英語検定の合格状況</li> <li>最終的な大学合格実績(GMARCH・国立早慶上理の合格者増)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【1年生】偏差値60以上の1年間推移としては、国語が微減、数学微減、英語が横ばい</li> <li>【2年生】偏差値60以上の1年間推移としては、国語が微減、数学は横ばい、英語微減</li> <li>英検合格者(昨年度比) ※R5年度合格者数 [準1級]:15名(+12) [2級]:255名(+101) [準2級]:190名(+12)</li> <li>R5大学合格実績(昨年度比) 【国公立早慶上理レベル】:76(+53) 【GMARCHレベル】:211(+125) 【成成獨国レベル】:280(+141) 【日東駒専レベル】:285(+166)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>土日祝日の自習室については年々利用者が増加しており、学習時間の確保、学習習慣形成に一定の効果を発揮している。難関国公立・私立を目指すのであれば、今後も利用生徒が増えていくことが望ましい。クラス担任を中心に積極的な活用を促す声掛けを継続していきたい。</li> <li>自立した学習をした生徒も増加してきたことに起因し、映像コンテンツも効果的な活用ができていく場面が増えてきている。「先取り学習」「復習」という学習の二大原則を徹底していくためにも、今後も積極的な活用を促し、さらなる学習の効率化を図りたい。</li> <li>英検の受験・合格状況については、受験者・合格者の増加傾向が見られると同時に大学中級レベルとなる準1級挑戦者も大幅に増加したので、次年度以降も今年度以上の合格者数が出るように、受験前夜、英語学習時間増加のサイクルを促したい。</li> </ul>	主に英語力に力を入れているように思われるが、理系を伸ばすことにも力を入れていただきたい。土日の自習室の利用時間を現状の17時よりも遅い時間にはできないか? 自習室を設けてくれるのはモチベーションを高める意味で助かっている。	B

5	<p>広 報</p> <p>広報活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者数 379名 (男192名 女187名) 10クラス <ul style="list-style-type: none"> <li>特選Ⅰ類 99名 (男43名 女56名) 3クラス</li> <li>特選Ⅱ類 120名 (男60名 女60名) 3クラス</li> <li>特選Ⅲ類 160名 (男89名 女71名) 4クラス</li> </ul> </li> <li>・単願 209名 併願 170名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上位層獲得の為の方策</li> <li>・男子学生獲得のため、掲載記事の工夫、部活動体験</li> <li>・説明会・個別相談会：北辰結果返却週の終日実施</li> <li>・高校入試ガイダンス：高校選びや入試の説明5～7月実施</li> <li>・オープンスクール：7～8月2回実施</li> <li>・プレミアム個別相談会：10～11月17:00～20:00実施</li> <li>・上位層獲得が見込まれる京浜東北線浦和・大宮、高崎・宇都宮線強化</li> <li>・徹底した塾訪問強化</li> <li>・相談者の多い地区に担当者を増やし、中学校訪問時間短縮同日、早めに塾訪問実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者数と単願・併願の推薦者数</li> <li>単願200 併願180</li> <li>・京浜東北線沿線・高崎線沿線武蔵野線の入学者数増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者数 347名 (男170名 女177名) 10クラス</li> <li>特選Ⅰ類 90名 (男37名 女53名) 3クラス</li> <li>特選Ⅱ類 109名 (男55名 女54名) 3クラス</li> <li>特選Ⅲ類 148名 (男78名 女70名) 4クラス</li> <li>・単願 186名 併願 161名</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者数は募集適性範囲内になる。</li> <li>・男子の入学者数も女子とのバランスが取れている。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者数を募集適性範囲に抑制</li> <li>・上位コース入学者数を確保</li> <li>・重点地域の上位層に向けた広報活動を強化</li> <li>・進学に向けた効果的な取り組みと進学実績をリンクさせて大きく宣伝</li> <li>・新しい学校紹介VTR作成</li> <li>・オープンスクールを7～9月に3回実施し、中学生の行動するタイミングを逃さない</li> <li>・朝霞・新座・東所沢・新秋津方面・越谷春日部方面の上位層獲得に向けた開拓を引き続き実施</li> <li>・高崎線・宇都宮線沿線も強化する</li> </ul>	<p>B</p> <p>オープンスクールに兄弟姉妹を勧めている。ネットの情報が、実際の偏差値よりも低く出ている。</p> <p>毎年上がっているにもかかわらず、それが反映されていないのは残念である。</p>
6	<p>国際教育</p> <p>国際教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学してくる生徒の学力層が年々上がり、英語に対して強い興味関心を持つ生徒、国際系の学部への進学を希望する生徒、日本の外に目を向ける生徒が徐々に増えている。</li> <li>・英語力を伸ばすのに効果的なオンライン英会話(DMM英会話)を導入しているが、十分に活用しきれていない。</li> </ul> <p>※DMM英会話について：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約すると「毎日1レッスンプラン」が利用可能。1年生は任意契約で毎年100名程度(学年の1/3～1/4程度)が契約。原則自宅でのみ利用可能で、学校内で取り組める場がない。</li> <li>・2・3年生は全員契約。週に1回の授業での利用のみの生徒が多く、自宅で積極的に取り組めていない。</li> <li>・授業やDMM英会話で培った英語力を、実際に使ってみる場としてBritish Hillsでの研修を企画しているが、令和5年度より海外研修を実施することで、さらに英語をリアルな状況で使う場を提供できることが期待される。</li> </ul>	<p>《Reimei English Gymの開設・運営》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開設の目的や概要を生徒・保護者のみならず教職員も含めて理解してもらうため、職員会議や学年集会での説明、「国際教育部つうしん」の発行など、積極的に啓蒙活動を行う。</li> <li>・参加生徒の満足度を上げられるよう、環境面の整備、設備の充実を目指して準備を進める。</li> </ul> <p>《英語校外研修(British Hills)のさらなる充実》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度参加希望者が多かったことを受け、対象学年を分けて年に3回実施することで、より英語力向上につながる行事の充実を図る。</li> <li>【第1回】2・3年対象、6月実施</li> <li>【第2回】1年対象、11月実施</li> <li>【第3回】全学年対象、2月実施</li> </ul> <p>《海外研修開催への準備・開催》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界を感じ、自らの視野を広げる機会を提供するため、夏はアジア圏、春はヨーロッパ圏での海外研修を開催していくための準備を進める。参加生徒の安全安心を第一に、「参加してよかった」と思ってもらえるような研修になるよう細心の注意を払って引率業務をおこなう。</li> </ul>	<p>《Reimei English Gym》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入会生徒数：80名程度</li> <li>・来室者数：毎回平均10名程度</li> </ul> <p>《英語校外研修(British Hills)》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数：100名程度</li> <li>・満足度：各回ともに参加者平均90%以上が「満足」の評価</li> </ul> <p>《海外研修》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【夏期(台湾)】</li> <li>・満足度：参加者平均90%以上が「満足」の評価</li> <li>【春期(英国)】</li> <li>・満足度：参加者平均90%以上が「満足」の評価</li> </ul>	<p>《Reimei English Gym》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数：81名(1年63名、2年16名、3年2名)</li> <li>・来室者数：令和4年度が平均6.8人だったのに対し、令和5年度は8.6人と、来室者を増やすことができたが、目標の10人には届かなかった。</li> </ul> <p>《英語校外研修(British Hills)》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数：延べ117名</li> <li>【第1回】31名(2年のみ参加)</li> <li>【第2回】65名(1年のみ参加)</li> <li>【第3回】21名(1年19名、2年2名)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度： <ul style="list-style-type: none"> <li>【第1回】100%(満足2名、とても満足29名)</li> <li>【第2回】98%(普通1名、満足4名、とても満足60名)</li> <li>【第3回】100%(とても満足21名)</li> </ul> </li> </ul> <p>《海外研修》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数： <ul style="list-style-type: none"> <li>【夏期(台湾)】83名(1年29名、2年44名、3年10名)</li> <li>【春期(英国)】34名(1年23名、2年10名、3年1名)</li> </ul> </li> <li>・満足度： <ul style="list-style-type: none"> <li>【夏期(台湾)】99%(普通1名、満足5名、とても満足77名)</li> <li>【春期(英国)】100%(満足1名、とても満足33名)</li> </ul> </li> </ul>	<p>B</p> <p>《Reimei English Gym》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に比べ、English Gym内での過ごし方をより明確に指示し、取りまとめることができた(DMM英会話の後に振り返りの時間をしっかりとる、洋書を読んで音読をおこなう「多読多聴×音読トレーニング」というメソッドを導入、など)。</li> <li>・次年度も引き続き継続的に通いたくなるような工夫をしていきたい。</li> </ul> <p>《英語校外研修(British Hills)》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度が予想よりも参加希望者が多かったために年に1回から3回へと実施回数を増やしたが、希望者が分散することとなり、1回あたりの参加者が予想よりも下回る結果となった。</li> <li>・海外研修や進路指導部の社会見学など、魅力的な行事が増えたことなども要因の一つと考えられることから、次年度は年2回実施に減らして様子を見ていきたい。</li> <li>・参加した生徒の満足度は前年度と変わらず100%近い数字であったが、これに満足せずにより充実した研修作りを心掛けていきたい。</li> </ul> <p>《海外研修》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浦和駅明として初めての海外研修を開催することとなったが、参加人数、満足度ともに十分と言える結果であった。</li> <li>・参加人数については、台湾は費用が安かったこと、英国は国的な魅力が高い場所であったことも影響したと考えられるので、次年度以降は費用面だけでなく、見学先や行程で魅了できるよう、関係業者と綿密な打ち合わせを重ねながら企画していきたい。</li> </ul>	<p>B</p> <p>Aでも良いのでは？</p> <p>英語教育等国際教育に力を入れているのは良い。</p>